

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191100161		
法人名	(株)日本ヒューマンサポート		
事業所名	ヒューマンサポート杉戸本島		
所在地	埼玉県北葛飾郡杉戸町本島611-1		
自己評価作成日	令和6年5月23日	評価結果市町村受理日	令和6年6月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和6年6月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ヒューマンサポート杉戸本島は食(作物作り)に力を入れております。オーナー様が農家の方という事もあり、ご利用者様が食べるお米は全てオーナー様が丹精込めたお米を召し上がって頂いております。令和5年4月1日にオープンしてからナス・きゅうり・枝豆・モロヘイヤ・すいか・ほうれん草・カブ・大根・白菜を栽培し、付合せやお漬物、おみそ汁の具に入れて食べて頂いております。今年はずでにカレーセットと題して人参・玉ねぎ・ジャガイモを作っており、6月初旬にはご利用者様と一緒に収穫し、カレーを食する予定です。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>東武伊勢崎線「東武動物公園駅」より車で約10分の所に位置し、周囲は田畑が広がり、静かでのどかな環境にある2階建て、2ユニットのグループホームである。令和5年4月1日にオープンし、グループホームのオーナーが所有する近隣の畑を借りて、家庭菜園を行い、様々な野菜を入居者と一緒に栽培し、食卓を囲んで食事を楽しんでいる。また、お米は農家であるオーナーの家から購入し、「おいしい」と入居者に喜ばれている。併設デイサービスセンターより、車を借りてドライブなどに出かけている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で理念を唱和し、共有している。	入社時、職員はヒューマンサポートガイドを支給され、理念などについて研修を受けている。毎日、理念を唱和し、各フロアには行動指針が掲示されている。職員も理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦という事もあり、地域での催し物がなく、参加できていない。	地域の中にはオーナーさんがおり、色々なことを伺っている。新興住宅が増えてきているが、元々の地域の人々は無理に繋がりを築こうとせず、神社の掃除などを行っている。地域での行事は行われていないが、民生委員案などと話し合っている。また、近隣への散歩に出かけ、地域の人々と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方に理解してもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員など地域の方には参加してもらえているがご家族様の参加がないことが課題。意見交換や情報共有は積極的に行っている。	杉戸町では3か月に1回の運営推進会議としており、参加者は杉戸町の担当職員、民生委員、家族、包括支援センターの担当者などが含まれている。出された意見はサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場の担当の方とは密に連携を取り合っている。	施設長は町の担当者と密に連絡を取り合っており、空床報告や連絡などを行っている。申請などで訪問したり、町からのメールでのお知らせも受け取っている。担当者との協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や会議を通じて身体拘束をしないケアを実践している。玄関の開錠はできていない	3か月に1回の身体拘束廃止委員会を開催し、職員は正しく理解し実践につなげている。また、6か月に1回の研修も実施している。玄関は安全上施錠されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて虐待にあたる行為を学び実践できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い、個々の必要性に合わせて関係者と話し合いながら、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ホームの重要事項や、理念など一つひとつを丁寧に説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、杉戸町介護相談員の訪問時に相談する機会を設けたり、日頃の面会時や運営推進会議等においても意見や要望をお聞きする機会を設けながら運営に反映させている。	意見箱の設置や杉戸町介護相談員の訪問時に相談する機会を設けている。面会時や運営推進会議などでも意見や要望を伺っている。頂いた意見や要望は運営に反映されている。	面会時や電話、お便りの送付時などを活用して、家族の意見や要望を積極的に収集し、それらを運営に反映させることで、サービスの向上に繋がること望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンス、毎日の申し送りで意見交換をしている。	施設長は会議やカンファレンス、毎日の申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映している。また、6か月に1回、個人面談を行い職員の状況や相談などを聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は3ヶ月に1度の個別面談を行い職員の状況を把握している。年に2回人事考課を行い評価を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に2回研修を行い、常にスキルアップにつなげていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月管理者会議が行われ意見交換の場が持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の好きな事や習慣等の好みの把握に努め、本人の希望や意向を把握しながら希望に沿った支援の実現に向けて本人、家族と話し合いながら行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話等にて聞き取りながら、不安の解消に努め、家族や本人の要望に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時や必要な支援の説明、ご紹介ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と適切なコミュニケーションをとれるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コミュニケーションを多くとれるように心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしてきたことを生活に取り入れるようにした	家族と一緒に親戚の人などが面会に訪れている。携帯を持っている入居者が子どもに電話をかけたたり、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りかわりを持ちやすいようにした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談にのることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望に添えるように日々話し合いをしている。	一人ひとりの思いや意向については月1回のカンファレンスで検討したり、家族に伺ったりして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話などでも、お話していただけるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングにて心身状態や新たなニーズ等に把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、主治医との連絡、相談により現状に即したケアプランを作成している	ケアマネジャーは3か月に1回のプラン更新を行い、サービス会議を開催している。本人や家族の意向を反映し、職員と一緒に意見を出し合って介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットでの個人記録を基本とし、気づきや改善点については連絡ノート等に記載し情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせ、既存のサービスに捉われず支援内容を柔軟に考え実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科、訪問理容を活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による訪問診療あり。受診についてはその都度、家族と相談し支援している	協力医療機関の往診は5月までは月2回あったが、診療報酬が上がり、6月からは月1回になった。歯科や歯科衛生士の訪問は毎週行っており、家族の要望に合わせて診療を行っている。かかりつけ医への受診は、入居者の状態に応じて、家族やホームでも受診の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の気づきや変化を看護職に伝え、適切な医療を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院のソーシャルワーカーと連絡を取り状況を確認している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し、看取りが必要になった場合再度説明をしている。	重度化や終末期についての指針はあるが、家族に提示はしていない。契約時に説明し、看取りが必要になった場合は再度説明し、ターミナルまでの支援をチームで行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、連絡体制、AEDの使用方法について訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて初期消火訓練、通報訓練、避難訓練を行っている	年2回の防災訓練を実施し、夜間想定 of 訓練も行った。職員は消火器の使い方や避難誘導について訓練され、備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに十分配慮した声掛けや対応を心掛けている。	職員は一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに十分な配慮をしている。特に言葉使いに関しては指導され、実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思や希望を話しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に左右されることの無いよう、ご利用者の意思や気分による決定を大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご家族様に用意いただき、その人らしくお洒落ができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんで収穫した野菜を召し上がって頂いている。季節ごとの行事食を楽しんでいただいている。食器拭きやテーブルをお手伝いしていただいている。	食事は湯銭の食事で、ご飯とみそ汁については菜園で皆で育てた野菜を入れ、米はオーナーさんから購入し使用している。入居者からは「おいしい」と好評である。行事食やおやつ作りなど楽しむことの支援に努めている。食器拭きや配膳、片付けなどのお手伝いもしていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の目標を一日1000mlを目標にしている。食事形態、食事量を個別に設定している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをしている。入れ歯は毎日入れ歯洗浄剤で洗浄している。口腔内に異常がある際には、訪問歯科を受診している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をタブレットに入力してデータ化し、最適と思われる時間に誘導を行っている。プライバシーには十分注意し誘導を行っている	排泄パターンを掴み、トイレに誘導している。一人ひとりの排泄の習慣を活かし、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と体操で出来る限り自然排便できるように支援している。主治医に相談のうえ、下剤等も必要に応じて用いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としている。本人の希望に応じて変更可能	週2回の入浴支援を行い、入居者の状況により日曜日の入浴を行うこともある。個々の要望に応じてゆっくり入浴していただいている。ゆず湯や菖蒲湯も行い、季節を感じていただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっているが、本人の意思を尊重し起きていたい方などには自由に過ごしてもらっている。本人の眠気や浮腫み等を考慮し、昼寝の時間も設けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員による3重のチェックにより誤薬を防いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能や生活歴を活かした趣味を楽しんでいただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候によっても変わるが、毎日、希望者とお散歩や畑にいらっている。季節感を感じられるようにお花見やいちご狩りなどを行っている。	天気の良い日には近隣への散歩に出掛けしている。デイサービスの車を借りたりして公園に出掛けたり、お花見やイチゴ狩りなどに出掛け、外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所でおこづかいをお預かりし、医療費、理美容、ご本人が購入を希望する物に使っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話や手紙は自由にできるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事ごとの飾りつけを職員と伴に行い、生活に彩りを加えている	リビングにはイスやテーブル、テレビ、DVD、雑誌などが置かれ、居心地よく過ごせるよう工夫している。壁には季節の作品が張られ、採光も充分にある。温度や湿度なども適切に調整されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで気の合ったご利用者様と楽しく過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自宅で使っていた物を持って来て頂いている。テレビやCDなど居心地よい環境作りをしている。	リストを入居時に配り、お茶碗など馴染みの物を持ち込んでいただいている。写真やテレビ、CDなど思い思いのものが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。職員が毎日ごみ捨てや週1回のリネン交換、清掃に入り、清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室や共有スペースの掃除、調理補助等、出来る事を行っていただき「自立した生活」を意識してもらえるようにしている		